

火野葦平『新中国旅日記Ⅱ』翻刻、紹介【一】

増 田 周 子

Material introduction: Ashihei Hino
 “a new Chinese travel diary, II” reprint and introduction [one]

MASUDA Chikako

Ashihei Hino participated as a Japanese cultural problem representative in the meeting of Asian countries held in New Delhi in India from April 6 to 10, 1955. It was decided on October 1, 1949, that twenty-eight people comprising the group of Japanese representatives would visit China after this meeting of Asian countries was concluded. Hino participated in an inspection in new China as one of the cohort of twenty-eight individuals. Hino and others entered new China via Calcutta, Rangoon, Bangkok, and Hong Kong, traveling from Shinsen by train on April 20, 1955. They began their inspection of new China from April 21. They went to Beijing via Guangdong and Wuhan on April 28 and stayed there until May 4. They recorded their travel circumstances in a Chinese travel diary.” which constituted their memorandum. It was hand inscribed in a pocket diary of 168 pages that was 9.5 cm in width and 13.5 cm long. This diary formed a valuable record in those days. This Chinese travel diary has already been reprinted and will soon be launched. This study constitutes a continuation of the Chinese travel diary.” and is titled, “A new Chinese travel diary, part II.” This pocket diary is 9.2 cm in width and is 12.4 cm long. It is recorded in a gray crossing wrap” notebook totaling 110 pages. Like the Chinese travel diary, the reprint includes the receipt, a picture, and a brochure. It comprehensively apprises readers of the state of the inspection of new China. This record extends from May 5 to 15, 1955. The present study intends to reprint and introduce the Beijing visit section of this diary up to the entry for May 10.

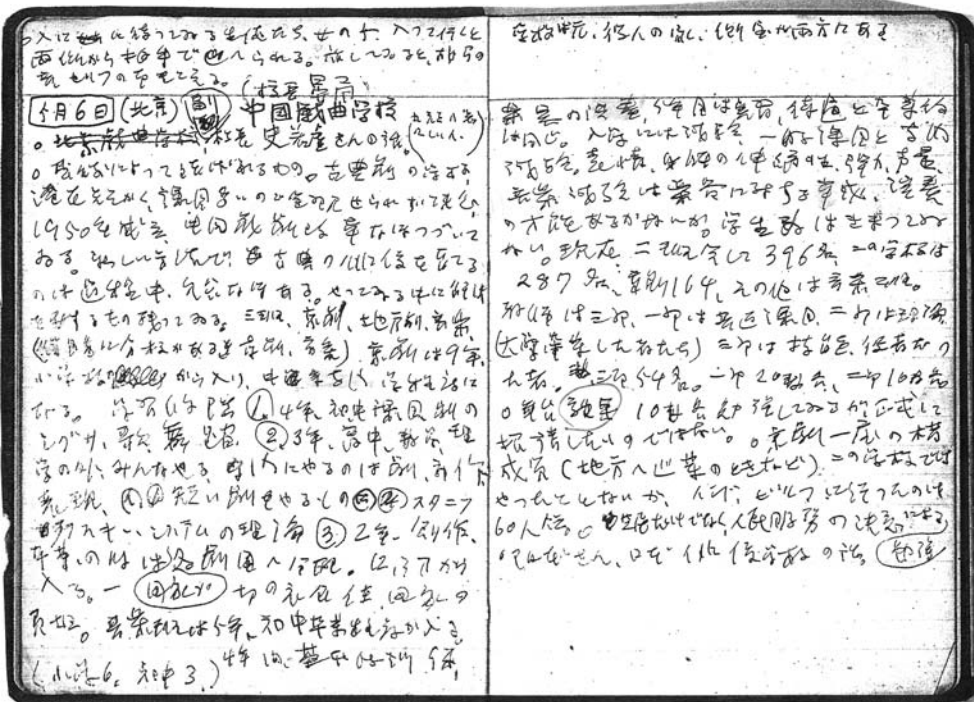
キーワード：『新中国旅日記Ⅱ』（Chinese travel diary II）、火野葦平（Ashihei Hino）、1955 New China（新中国）

はじめに

火野葦平は、一九五五年四月六日から十日にかけて、インドのデリーで開催された「アジア諸国会議」に日本の文化問題代表として参加した。「アジア諸国会議」終了後、会議に参加した日本代表団の一部の二十八名は、一九四九年十月一日に成立した中華人民共和国、すなわち新中国を視察することになる。火野も二十八名の一人として新中国の視察に参加した。火野らはカルカッタ、ラングーン、バンコク経由で香港に入り一九五五年四月二十日に汽車で深圳から新中国に入国した。そして、二十一日より広東から新中国を視察していく。広東、武漢を経て、四月二十八日に北京を訪れ、五月四日まで北京を視察する。その様子を、自筆資料『中国旅日記』に記している。この『中国旅日記』は、横 9.5 cm、縦 13.5 cm で「MEMORANDUM」と書かれた手帳であり、全 168 頁である。一九五五年四月二十一日から五月四日までの新中国の訪問中の出来事を詳細に綴った日記風の「メモ」であり、当時の記録として貴重なものである。『中国旅日記』については、拙稿ですでに翻刻紹介している。

今回紹介する日記は、この『中国旅日記』の続きで、『新中国旅日記Ⅱ』というタイトルの日記である。『新中国旅日記Ⅱ』は、横 9.2 cm、縦 12.4 cm でグレーのクロス装「NOTEBOOK」と書かれた手帳であり、全 110 頁である。『中国旅日記』と同じく、「日記」の記述以外にも、領収書、写真、パンフレットなどを添付し、自筆の絵もかいていて、当時の新中国の視察の様子が詳しくわかる。一九五五年五月五日から記され、五月十五日までが記録されている。特に、北京の様相や撫順の戦犯収容所を訪れた時の記録などが記され、興味深い。ただしかなり長いので、今回は、北京訪問の五月十日までの部分を翻刻、紹介したい。なお、判読できない箇所は、□で示す。

さて翻刻するにあたって、火野葦平資料館をはじめ皆様方には貴重な資料の閲覧を賜り、深く感謝申し上げます。なお、現在は北九州市立文学館に所蔵されています。重ねて御礼申し上げます。



画像①

新中国旅日記Ⅱ

5月5日-5月15日

(北京-瀋陽-鞍山-撫順)

5月5日 (北京)

- 印刷工場見学に行く。新華印刷廠
- 廠長さん (王大任) の話-
- 以前、日本が占領時代、新民印書館だつた。国民党時代、正中書局 (蒋介石の名をとつた) 印刷工場だつた。解放後、新華印刷廠となつた。はじめから大規模、国民党破壊、ここら一帯荒れてゐたのを建てた。2000名、二班制、一年に50万連印刷、人民出版社のもの、教科書、文芸読物 (小林多喜二のものもここで刷つた。) 外国語のもの、翻訳もの、雑誌、石版、絵等。工具25才以下半分、約四分一女工。植字、鑄造、校正、紙型、凸版印刷。対面 (表紙等) 日本製のキカイ、大キイのが10台、大部分は中国のもの、以前からのものはドイツ、アメリカのものもある。大部分、このごろは東ドイツのもの。二台。ソ連輪転

機。

- 平板印刷、さう大きくない。写真、製版。印刷、中国のもの比較的正確、中島式とほぼ同じ様式。浜田式、一部はアメリカ機械。

(朝、はじめて洋食、タダシ、コーヒーとパン二片、オムレツ一つだけで、変更を希望した者もなんだか不満さうである。)

* (欄外) 北京市阜成門外

* (欄外) (カンエモンサン、シャツ二枚くれる、京劇8時)

- 製本部門。重要設備は東ドイツのもの、自動式。帳チョウマイをとるキカイ、表紙をつけるキカイ、等がある。
 - 雑誌専門部、○ 動力室 ○ 修張室。
 - 解放後、人民教育の速度に合はせ、以前の20数倍になつてゐる。過去、上海あたりにかたよつてゐたが、今はこつちも増大した。労働者平均年齢27才、技術レベルは低い。日本は印刷の発達した国だから、今後のこと意見頂きたい。
 - 1938年の末、出来た。39年に印刷しはじめた。
 - 国民党の時、上海、北京を重視、北京は印刷工場少かつた。今でも。中小企業も少かつた。高務印書館(私営)は上海総合、北京支部、本店は日本爆撃にやられた。今、小規模になつた。北京支部は最近、公私合営になつた。小印刷屋(名刺位のもの)100軒位。共同して、組合を作つてゐる。互助組のやうなもの。国営、書籍印刷は全国一。新聞社自体は大工場を持つてゐる。紙幣工場北京にある。
 - 外国語のものは、外文印刷廠。
 - 民族印刷廠——少数民族のためのもの。
 - 北京何印刷廠などが他にある。
 - 工場見学。廠長「火野さんは印刷工場と仲がいいわけですね」笑ふ。こわれてゐたのかき集めて来た。1950年建てた。鑄造部キカイから次々に出て来る銀色の活字の列。モーターと機械の音。日本のキカイ。母型も日本のもの、許化2名が入つてゐる。
 - 紙型部 紙型をたたく機械。他の者はきでたたいてゐるが、一人キカイでやつてゐる。自分が考案したものいいか。研究中。
 - 競賽成績記録(解放台湾のため)
 - 架工組、紙型組、及銅模組、案工組、改様組、校对組 材料組、□学組、鉛版組、制本組
- ☆→金星 ☆ 黄星-成績悪し
赤星

次 返工といふのもある

- はつきりかきだされるので皆、閉口。
- 文撰部。一時間平均 1700 字。
1 時間 2000 字扱ふ女工、いいとき 2400 字 6 時間半、半時間は字を直す。表彰された。
21 才。黄槿蘭（去年工場で労働模範）
- 石版印刷部。国民党がトラックで持つて行かうとしたものが残つた。アメリカ製。美しい
原色版。インク中国製。
- 群衆問答、検討、等。揭示板。
- 製版部、ポスターたくさん刷つた。（子供とハトの絵。）
- 「製版組個人紅旗競賽図表」個人優勝者をはりだす光栄榜。
- 写真部、アメリカ機械 上海から持つて来たもの、一台は日本のを改造した。
- 修版部（修正室）
- 階下へくだる。輪転機。ソ連、
- 製本部、「人民文学」の山、五月号。「学習」5 月号 人民教育
とじる機械、東ドイツ製。8 時間 5 万冊
- 断裁機。切り屑の山。十冊づつ。
- 印刷工場。ドイツ製。自動式、二人ついてゐるだけ。じつと見てゐる。
1 分間 35 枚行く。10 台。平版—大規模。インクのにほひ。
- カネ鳴る。仕事やめる。11 時。
- 製本部、トジる機械（チエツコ）
- 「日本のキカイが欲しいけど、残念」と廠長いふ。ボール紙ダンサイ機、日本製
- 紙折るところ。自動折り機。女の子二人で操作してゐる。頁のしきりものは□□すぎてダ
メ
- 表紙つけるところ。
- 「資本論」「中国歴史」の山。
- 自動式に表紙をつける機械。東ドイツ。
- 部屋にかへる。廠長「中日貿易の中に、キカイが入つてゐる。学習雑誌、北京だけ 90 万
冊出てゐる。需要大きすぎる。」
- 紙のこと。かへつて持出 東北、吉林に製紙工場がある。高級紙はすくない。
*（欄外）廠長「作家なのにタバコ吸はないのですか」
- 給料、高給 92 円、低級 30 数円、平均 50 円以上。軽工業と同率位。

賃金の高いのは給料の25/100、計画を果せない者はもらへぬ。質を高めた人、量を高めた者、事故おこさぬ者、節約者、等。

- 10日以上休むと、月給半分、賞金もない。私用休みは給料から引く。勤続年限が長ければ、病気しても給料全額もらへる。60/100以上の者。
- 工作8時間（実働、食事時間をふくまぬ）忙しい時、残業5割増、日曜の時は二日分、工員は税金かからぬ、月給生活者は税金全国的にかからぬ。廠長も「無税、金あまれば国家□設の公債買ふ」給料100円あまり。普通工員の生活費、-小部分、衣食住困る。老両親と子澤山、女房働けぬ場合。他の一部季節の変わり目、女が働きに出てくる。倏約すれば不自由はない。どこの工場も困難の補助がある。組合費の中から20/100で援助。置連生産の基金のうち5/100も。補助を決めるのは組合でしらべて提出。みんなで討論、毎季度（三ヶ月）その本人に話す。急病工場内医務室で無料。6時-一班 一般は8時-5時マデ 二班-2時半出勤。労働保険 労働者は出さぬ。家族死亡の節も同様。

特効薬必要のときは払ふ。工員たちで互助会組織してゐる。政的に借りる、故郷へかへる旅費など。生活のレベル、高くはないが、国民党よりはるかによい。毎日曜、祝祭日休み。休暇別にとれないが、労働模範になつた者は、一年に半月、白哉河に休養にやる。中国は農民が一番苦しいので、工員があまりかけはなれないやうに配慮してゐる。妻、子三人暮らし位では給料で結構、生活できる。中国は食物は安い。

廠長さんは18円 自分は食べてゐる。上等で充分。機械工員は10円前後、1斤の饅頭（マントウ）四ツ十銭。独身寮、900名以上。400戸。この附近に家族社宅がある。16平方mの家、2円ちよつと。（食、水共）宿舎がたりない、300名位。計画中。結婚したくて家のない者がある。女工、産のとき、56日休暇、（有給）

- 初任給（学徒）22円ちよつと。一年半で普通の労働者になれる。解放前は3年、資本家が搾取したため。技術進歩早ければ昇給早い。成績いつも検査。各部の主任が良く見てゐる。自分で申請することもできるが、討議によつて決定。技術標準。福利施設。托児所（二種類、昼間だけのもの一つ、2食2円あまり、一週間位あづけ、土曜日つれてかへる、13円）図書館、クラブ、風呂、理髪。
- 文化部門-文盲はゐない。工場の夜学、で勉強。スポーツ、ピンポン、演劇、私劇、評劇、舞踏等。□工員、字を知らなかつたが勉強。職場雑誌、工会の機関誌はない。新聞へ投稿する程度。作家は出てゐない。
- 「人民文学」「時事手帳」「学習」「小学教師」「人民教育」「新華月報」「新カンカツ」「科学雑誌」「展望」（平和委員会）等。「学習」が一番多い、90万以上

- 「新華月報」7万以上。「人民文学」13万餘
- 北京市工会連合会。印刷の全国組織はない。
- 学習－技術、政治理論、時事問題学習等 □査者。唯心論反対（胡風批判）等をやつてゐる。
- 過渡期は重要なので、全部やつた。ソ連史など。
- 競争、各部。労働強化みたいな結果が出たので、方法を変へた。無理させない。老工員、過去にひどい目にあつたのをいたはらうとすると、若返つたんだといつて積極的に働く。停年、男60才、婦人は50才。1年40%あがつた。養老金、60/100死ぬまで。
- 工員から大学へあがつてゐる者がある。連成中学へ入つた者もある。老工員、息子が大学に行くところこび、はげむ。（「連環民報」に出てゐる工人の絵「研究技術」張粉如）小藤さん「中国査報が送られてくると、日本の凸版印刷の中でグルグル廻す。中国労働者の顔が明るいのをうらやましがる。これからもさういふのを送つて頂きたい」杉浦君「日本の印刷労組と文通したい」金子至太氏のこと。
- 廠長「日本と中国とは長い歴史、短い期間戦争で□□したが日本帝国主義のやつたこと、8月15日東北長春にゐた。そのとき接触した日本人はよかつた、人民の友情を感じた。これは中国人全体の見方。日本人民へ自由ないい生活ができるやうに願ふ。連系を深めるべき、両国民の努力によつて達成できると信じる。日本の鑄造母型が欲しいのにアメリカ妨害で輸入できないのが残念」
- 杉浦君「中国印刷物はインクの問題」
- 廠長「この中に中国にいらした方は？」火野さんといふ風に自分の顔をみんな見る。もう兵隊で来たことはいへなくなつてしまつた。北京に妹がゐたので半月程来たことだけいふ。
- 今後の交流を約して辞去。1時四十分であつた。
- ホテルにかへつてみると、まだ十人位しかかへつてゐない。政治經濟座談会が長びいたらしい。二時からの監獄行遅れる。二時四十五分出發。方角がよくわからない。昔の北京がそのまま残つてゐる街々の間を抜け、城外に出る。

◎北京市人民法院監獄。（空白のまま）

- 所長－孫非琪さんの話。通訳は京大氏。
- 40年前北洋軍閥が建てた。所長32歳、中学を終へ、申日戦争のとき、家庭と学校をはなれ、工作に従事した。給料100円あまり。小柄。

解放後、一部の建物を工場になほした。罪人労働によつて、改造。二工場－紡績工場、靴

下工場、国家投資、原糧も国から供給、製品は国家計画の中に入つてゐる。罪人 2000、(女 100) 既決者ばかり。反革命分子 (2/3) と刑事犯人 (1/3)。未決囚は別。

* (欄外) (売淫の罪? 姦淫の罪?) 女囚

- 罪をおかしたことを認めさせることが教育、労働観念の教育といふ。反革命分子は、搾取と寄生的な思想を持つた者、労働を好まない、労働技術を覚えさせる。教育によつて国家建設と世界状況を知らせる。アジア・アフリカ会議は学習の対象。文盲教育。演劇、映画。新聞、掲示等。
- 生活、日課、9 時間労働、睡眠 8 時間、学習 2 時間、娯楽 1 時間、1 週間 1 日休、休日は映画、娯楽等、面会一ヶ月 2 回、通信は自由、風呂散髪半月に 1 度、運動場で運動、冬は湯、夏は水、いつでもあつて身体を洗ふことが出来る。囚人一カ月 8 円の食費、一日一斤野菜、一週間肉四斤、被服は支給。労働賃銀はやらぬが、賞金、奨励金はもらへる。三ヶ月に一回評定会をひらいてきめる。賞金 15 円 50 円 100 円位推移。賞金もらふと刑期が減る。十年以下の者多し。短い者、半年。長い者 20 年のもある。無期徒刑者若干。成績よければ有刑にする。一般刑事犯、泥坊、傷害、風紀びらん、汚職「公の金を失敬する」等。
- 反革命分子は労働改造と教育で思想改革させる。労働観念-「人民の苦しみのうへに自分の幸福を築かうとする癖」搾取と寄生の意。ボス。女囚教育は男とは別。仕事も別。解放後の犯人ばかり。
- 懲罰反省と思想改造、労働と政治教育とを結合させる。囚人をたたいたり、罵つたりはしない。工作人員の中でそれをやる者があれば罪をおかしたことになる。管理は不十分の虞があるので、注意ありたい。(もの静かで、聡明さうな所長)
- 見学に廻る。煉瓦づくりの建物ならんでゐる。監獄といふ陰惨さがない。モーターの音がきこえて来る。
- 「清河綿布廠」働いてゐる囚人。マスク 廻転する糸車。モーモーたる白煙。
- トウモロコシをひく工場。袋の山。廻る臼。
- □、鉄格子、金網、キイロイ花、青柳。
- 監獄供鎖社(物資場) 衣料、カンヅメ、タバコ、紙、サイダー等。
- グリグリ頭の囚人、のばしてゐる者もある。
- 野外舞台、「国营連合工廠清河針織廠」
- 炊事場、マントウをむしてゐる。四角籠の 15 段、セイロのやう。五尺四方くらゐ。
- 靴下工場。足の形。湯気が立つてゐる。
- 「職紙」工場。たくさんのキカイと人

- 評定会で、成績良い者は賞金、わるい者は警告批評、懲罰、刑期を増す場合がある。
 - 技術をおぼえて出所しても、働きたい者はこの工場に来て工具となる。
 - 釈放のときは旅費支給。
 - 5時半、辞去。バスで古見君（国鉄闘士）と隣合せになつて話してみると、彼は戦争中、5,6年も鉄道技師として、華北交通、南京などにゐた由。「さういふこといふと、戦犯といはれるのではない」といふ。
 - 青年宮 話劇「鋼鉄運輸兵」（東単、北京級店傍）
 - 黄悌作、呉雪演出（導演）四幕六場の新劇。朝鮮戦線に出て行つた中国志願軍輸送隊の苦年物語。装置証明、音響効果などよく、舞台転換が音もなく迅速に行はれるのに感心した。しかし、芝居そのものは自分の胸を痛くする。日本の兵隊もこんな調子であつた。もつと苦勞し、もつと勇敢であつたかも知れない。異なるものは目的と動機だ。役者もよくやつてゐたし面白くもあつたが、感銘は異様だつた。安部きみ子さんは、いいわねえ、すばらしいわねえといふが、自分は単純に同意することができない。中国のすべてのものが、自分の胸をえぐる。団の中にも「日本帝国主義の手足となつた兵隊」などと公の席でいふ人がある。このごろ苦痛になつて来た。早く帰りたい気持ちがわく。
 - アンデルセン、モンテスキュー、シルレル、四人の文化人記念会（北京飯店）に行つた連中、先に帰つてゐる。（割当てが十一人しかなく、希望者表が廻つて来たときもう十一人になつてゐたので、行きたかつたが行けなかつた。）中村さんの息子、戸畑市議に当選し、日本の新聞に朝鮮の日本戦犯帰国のことを斡旋したとかで、中村さんの名が出たといふ話、事務局に五六人集まつて話してゐる。それではといふことになり、吉岡団長の部屋に行き、ビール、ブランデーなど、とりよせて乾盃。
- *（欄外）（中原君、ヴァイオリンを買ふはなし。）

- 入口に待つてゐる生徒たち、女の子、入つて行くと両側から拍手で迎へられる。話してゐると胡弓の音、セリフの声きこえる。

5月6日 (北京)

中国戯曲学校校長晏甬

副校長 史若虚さんの話 (丸顔の若々しい人。)

- 馬術によつて結ばれるもの。古典劇の学校、漫画をえがく。課目多いので全部見せられず残念。1950年成立。中国戯劇改革なほつづいてゐる。新しい方法で古典の俳優を育てるのは過程中、□□なほある。やつてゐる中に解決を要するもの残つてゐる。三班、京劇、地方劇、音楽 (□□に分校がある 京劇、音楽) 京劇は9年、小学校から入り、中□後学程度になる) 学習段階 ①4年、初、中、課目、劇のシグサ 歌、舞踏 ②3年、高中、数学 理学の外、みんなやる。専門にやるのは劇、動作、表現 ①①短い劇をやるもの ②④スタニスラフスキーシステムの理論 ③2年、創作、卒業の時は国家が各劇団へ分配。12、3才から入る。一切の衣食住、国家の負担。音楽班は5年。初中卒業程度が入る。(小学6、初中3) 4年間、基本的訓練。

楽器の話□、5年目は実習、待遇と卒業後は同じ。入学には試験。一般課目と専門試験。表情、身体の伸縮性、弾力、声量、音楽試験は楽器に対する□成、演奏の才能あるかないか。学生数はきまつてゐない。現在二〇会は396名、この学校は287名、京劇164、その他は音楽班。教師は三部、一部は共通科目、二部は理論 (大学卒業した者たち) 三部は技能、役者だつた者。三部54名。一部20数名。二部10数名。

- 舞台□集10数名勉強してゐるが、正式に招請したものではない。
- 京劇一座の構成員 (地方へ巡業のときなど) この学校ではやつたことないが、インド、ビルマに行つたのは60人位。芝居だけでなく、人民服務の決意による勉強
- 阪本さん、日本俳優学校の話。
- スタニスラフスキー・システムはソ連でも論争の的となり、日本でも影響をうけた。しかし中国では、この理論を古典劇あはせて適度に精神をとり入れる。女形 (オヤマ) は古い劇にはあるが、この学校では、女は女がやるといふ方針 (女形の養成はしない。ここだけでなく全体的。)
- 講堂、「歓迎日本出席亜州国家会議大法訪華団」上に大きくかいてある。紙のキリヌキ。
- 身体の基本訓練、七人の男学生、二人の女学生。バレエのやうに足を額まであげる。柔軟な身体、終わるとピタッとキマリをつける。六十位の先生 (男、アサギ半袖シャツ、黒ズボン)

- 五人の女学生、太鼓とともに、ゆるやかな基本動作（お空の太陽のやう） 女将軍が甲冑をそろへる動作。濃やかに曲る美しい指（白上位、トキ色のズボン、ムラサキの掌、桃色のフサが先についた半革靴、赤いネクタイ、オサゲ、白リボン）



画像⑤

- 馬に乗つたときの基本動作（5人女学生）
- 一人、女英雄、馬にのる動作



画像⑥

- ムチ、くひを持つてゐるのは乗馬の約束。
- 五人の男生徒（5年）二人の教師、宙返り。
- 立ちまはり。男四人女二人。若いのに、なかなかうまい。青龍刀、槍、二刀流の女。
- 長被踊り、八人女学生。桃色と水色、太鼓 胡弓、琴、美人、肩かけたフサ美しい。
- 劔舞。笛。扮装した女学生。すばらしい。クマドリ。大キナ眼、美女である。二本の劔キラキラ。
- 「打焦賛」（短い劇）
- 宋朝時代の話（何さんがあらかじめ筋を語る）

投降派と抗戦派とあり、楊^{ヨウ}将軍の8人の子、投降派の□□は遂に孤立、何年かの戦^{マタ}も将軍も子供も戦死 8人のうち、楊迎昭（6番目）残る。

盃を宋朝に送り、援兵をたのむが、投降派に邪魔される、炊事夫の娘、援兵として来る、焦賛といふ武将、容赦智略、この娘を見て、役に立たないと思つてケイベツしてゐた。盃リヨウはそれをとがめた、自分に勝てるならと、娘と腕くらべ、賭ける。したのを楊が仲介。女わざとはじめ負けたふり、焦賛さんハラハラ、しかし、結局、焦さん負け、女にあやまる。
- 芝居はじまる

◎昼食。はじめての洋食。ソ連から招待された。労働代表が全部食堂に来る。ロシヤ人の日本

語通訳。

○霍さん（随宮主任）

登さん（副主任）

建坪 42000 平方 m、八〇〇主動（30 万平方 m）部局長 500□

○ 中央民族学院（西北部学校区）「如弟如兄」郭沫若さんの字

宗文さん（副校務長）

はじめ□部成迎へ。

○ 小林さん、こちら側を紹介、

○ モンゴル族（ソロレカ嬢、桃のキモノ ムラサキ帯）

○ 王文明君（海南島 □□□ 紺衣 赤帽赤紫）

○ 宗文氏の話 - 1951 年度、中央人民政府政務院の民族学院準備案にもとづき成立、政策にもとづいて建設。漢民族の外、この言語を学ぶために来てゐる者もある。1300 名学生、48 民族ある。

三部分①言語、文学 ②政治関係 ③ ○○科

○ ①語文科、漢族が多い、高等学校卒業した者。本科、専修科、研究班。

本科は少数民族の言語文学を学ぶ。4 年。文学を持つた少数民族は二三種類。言語のみは 3 年卒業。卒業後、文学また言語研究し、先生、通訳などやる。専修科は高等中学卒業。去年はじめたので一組だけ、苗族、僮族、の二族。研究班は本科卒業した学生、去年成立。将来少数民族のため、文学を創作し、これをあたへひろめる任務。

②政治理論。チベット藏族をはじめ学習、15,6 のグループ。少数民族言語班学習。雲南の景頗族、ナシ族、リリ族、等。八つの教員研究組。先生と工作人員 100 名、政治掛りは学生養成。短期班 3。本科 2 年 - 3 年。政治理論評部養成、短期は半年、一年、一年半、一般の常識的政治文化、各地見学。色んな班は文化、本民族の言語文学、小中学程度、卒業後、専門的学校へか、この学校の本科に入る。研究部、少数民族のの問題研究、歴史、資料、現状調査 約十名。附属中学の一つ、300 名、北京市各中学と同じ。これから本式になる。図書館もまだない。意見をきかせて欲しい。

○ 生活面 - 複雑、大家庭、服装、そのままの服装。食事も彼等に適したもの、イスラム、チベット 庵方、等。宗教、風俗習慣尊重、お祭は休ませる。民族的事変、団結。

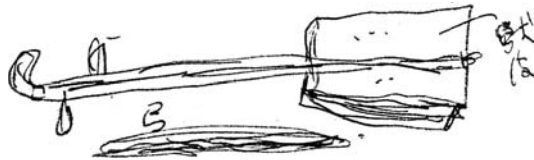
○ 地方に七つの学校があるが、ここで□集してゐるといふ関係はない。

○ 学校見学。

- 講堂。「中央民族学院」のバッチ（赤 幹部 白 学生）
- 一年に制服二着。民族服一着支給す。
ふだんは民族服着ず、祭日のとき。
- チベット、藏経堂。ラマ族、強い香のほひ、経本。
- 回族の学生
- 礼拝堂、イスラム教、なにもない。白い布三枚ひいてある。「入るな」
- 十五教室 ○第十四教室、チベット。
- 図書館、ウイグル語、朝鮮語、チベット、たくさん閲覧してゐる色々の民族。
- 合作社 店-滴瀉涕（DDT）日用品、なんでも。派手な手拭、靴下
- 工事中の校庭、ホコリ立つ。
- 楽路、歌声。
- 食堂 献立いろいろ（個人の嗜好 宗教民族の別）
第一席から九六席まで。——西北、宗教
54 席 - 不吃鶏魚席次 - 藏族、西度省。
61 - 不吃猪肉席次
73 - 不吃牛羊肉席次
85 - 素菜市——
90 - 不吃鶏牛羊肉席次
94 - 病號席次
- 「学生会意見箱」
- 松の木を新に植えたあと。
- 運動場。鉄棒（重量アゲ）運んでゐる学生。
- 研究部の資料室。四種類の文字で□□
維書爾族 柯□孜族 蒙族 藏族
(蒙族馬頭琴)



画像⑦



画像⑧

- 瑶族－長鼓華衣裙、盤符
- 苗族、僂頗族
- 象腳鼓（傣族）（インドの太鼓に足をつけたやうなもの）。美しいもの、珍らしいもの、欲しいものばかり。
- 少数民族は60種以上、ここにいるのは48。
- 部屋にかへり、また宗文さんの話きく。
- 日課、春季（今）6時起床、6.20-40、体操、6.40-7.00自習、7.30食事、8.10～12.10授業（1授業50分）12.10昼食。2.10～4.10、授業 4時 10-6.00課外活動、体育と文化活動、歌おどりなど、6.00夕食
7.30-9.30自習。10時就寝。（夏季になるとちがつて来る）
- 入学－衣食住の外、小使をやつてゐる。各省地方政府、少数民族の自治部政府、北京の機関から紹介されて来る。出身、農民、教育、工作人員、受験もある。性別なし。
文化水準によつて入学。ひくい場合は予科。体格検査。
- 年齢20才－30才、わかかに40才以上、60才位のも稀にゐる。チベット、学校少いし、水準ひくいので、そちらから移されて来るのもある。地方民族から来る者。牒城以の工作者、など。
- 芸術方面の天才、すぐれてゐる。歌、踊り、民芸、色彩、模様、文芸方面の向上につとめたい。ヨーロッパ、アメリカで人種論には劣等、高等はあり得ない。すぐれた芸術を持つてゐる。天才ある者がゐるが、まだその方面に集中してゐない。将来、作家の出る可能性は充分ある。
- 歴史研究、資料蒐集の段階にある。歴史不明のものがある。新しい観点から研究してゐる。モンゴル族は比較的多い。（日本など）北方はわりあひわかつてゐるが、南方、苗族、瑶族、僂族などはほとんど資料がないといつてよい。書かれたもの不正確、漢民族が少数民族を圧迫してゐた時代かかれた文献は参考にならない。民族数もわからない。60-70程にも分けられる。科学的に分類できてゐない。各地方へ人を派遣して調査中、将来、これを研究して達成したいと思ふ。
- 6時辞去。バスが出て見えなくなるまで、皆で手をふつてゐる。ホテルにかへり、売店で、少数民族写真集と文献（英語）二冊買ふ。金がなくなつてしまつた。
- 「草原之歌」（天橋劇場）
チベット族の二部落が苦界灘といふ土地をめぐつて争つてゐるのを、国民党がけしかける。二つの部落の相愛男女。戦ひの不幸と解放軍による幸福と平和と団結の獲得。美しい舞

台。巧みな場面転換と照明。しかし、例の工作テーマがあまり露骨すぎてすこし興ざめになる。どんなものにも入つて来る啓蒙的なものの意味はわかりすぎるほどわかつてゐるが、かういふ美しく楽しいオペラには象徴的にぼかした方がよくはないかと考へる。かういふ印象はまちがつてゐるかも知れない。閉幕後、年度も拍手して、幕をあけさせる。ソ連の客がゐるやうだつた。

- ホテルにかへる。十二時、これから会議といふ。翫右衛門さん、
ツボン下を一枚また差し入れてくれる。明日、天橋に行く約束する。これまでの日程は全部
皆尽力したので、明日の経済建設座談会と科学院見学は休むことにした。

- 全体会議（ホテルの二階、会議室）

- 帰る人－中村。秋元、泉、永瀬、松本寅、松岡

*（欄外）汽車の音、カン、カン、カン、カン

11日出発（8人）

5月7日（北京）⊕

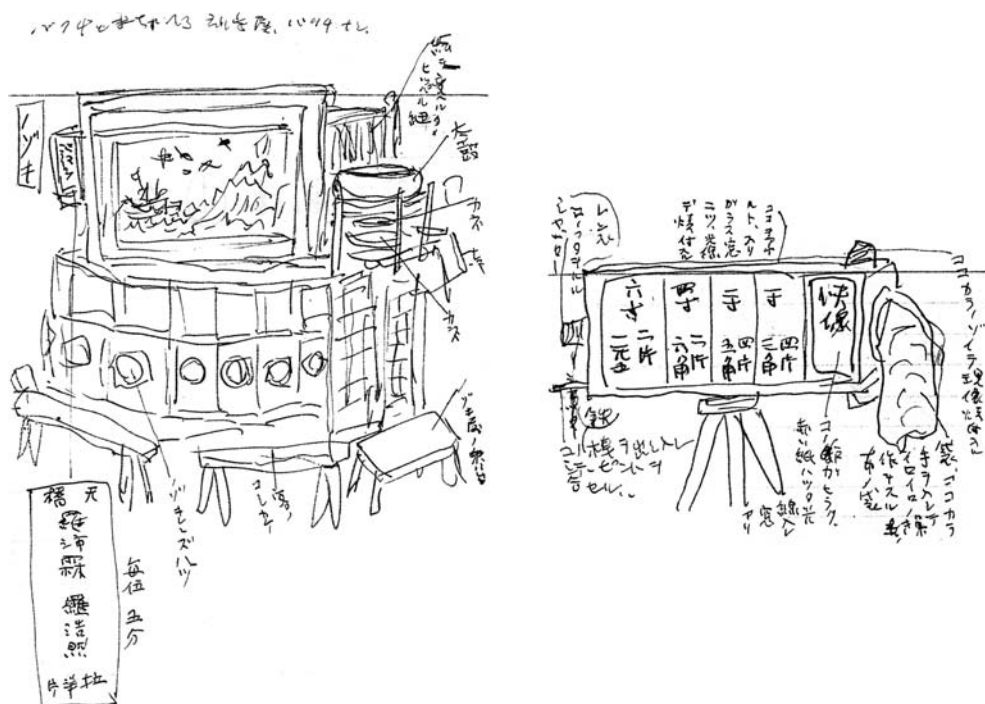
*（欄外）□□天

- 11時ホテルを出る。丹野さんと永瀬さん。三輪二人二十銭。北京飯店前に車を用意して
翫右エ門さん待つてゐる。その車でとばす。北京駅の前の毛主席、ブルガレニンの像もうと
りはらはれてゐる。

- 天橋 丹桂園 河北、椰子劇団

*（欄外）バクチとまちがへる □□屋 バクチなし

- 徳興隆茶社。「每位水銭五分茶葉在外、」西瓜南瓜種。



画像⑨

- 洋服注文。荷物が着く見込なくなつたので、王府井の洋服屋に行く。翫右エ門さんが平和委員会の孫さんと呼んで案内してくれた。身体をはからず、前の洋服と同じにして貰ふ。138円いくら。日本円で約二万円。カンエモンさん半金立て替えてくれた。
- 評劇。大衆劇場。「劉巧兒」(午後七時半開始。劇場は前門外にあつて、客は庶民的な連中ばかり。舞台と一体になつてよろこんである) 新派風のもの。京劇とは歌ひかたがちがひ、言葉も現代語らしい。地主が小娘を女房にしようと考え、失敗する喜劇だが、これにも工作員や党の指導者が出て来て、おきまりのカンゼンチョーク劇になる。しかし、役者がうまく、見てみて面白かつた。女主人公巧児をやつた新鳳霞といふ女優は人気役者らしい。「静肅」といふネオンが舞台の上にときどきつく。
- ホテルの部屋の電気を消すと外が明るい。青白く光るホテルの壁。満月。タジ・マハルを思ひ出す。二度目に見る東洋の満月。もう印度へ引つかえすことは不可能とあきらめる。一切のプランがオジヤンになつた。

劉巧兒のパンフレット2葉貼布



画像⑩



画像⑪

5月8日 (北京) ㊦ (富永さん、議長)

- 全体会議 (9日) 二階の部屋 ①9日の日程、ソビエツト大使館訪問が急に出て来て、農業、小学校と三つになる。ソビエト行多く、アトニツ数減る。②日程。④ 11日出発の人、夜10時発香港へ。㊦11日午後4時発、12日10時瀋陽着、13日滞在、14日、自動車で鞍山へ。15日、撫順、夜瀋陽発天津へ。16日、天津見学、17日夜発 18日夜南京着。19日、市中見学。夜発蘇州へ。20日夜上海着。21, 22, 23上海見学。23日午後6時発、夜杭州、24日見学。26日朝広東着。27日香港へ。⑦朝、鮮旺、朝鮮では全員うけ入れる。9名、ところが経済人をぜひ入れてくれといふ希望。松岡氏を入れて10人。11日午後4時出発。㊦班と行動をともにする。撫順の日本人収容所で、戦犯と会見する。朝鮮10日位。かへつて北京で1日休養。上海廻り広州へ。
- 朝鮮班へスタッフを一人つけること。中原君の名が出るともめる。中国見学団の方が本銘だといふ提案 (杉浦君)、亀田さんから注意の発言。
- アジア会議の学習について。1、会議の概観 2、評価 3、決意 4、印象—これらの文章を国内で出版するので、各自かくこと。

* (欄外) ① 早帰班6人—中村、永瀬、泉、松本広、秋元 竹中

㊤ 見学班 11人 - 小林、吉見、杉浦、富永、早坂、松本正、迫田、丹野、吉田、和田、長谷川

㊦ 朝鮮行 11人 - 畑中、朝田、坂本、鈴木、泊屋、安倍、牧ノ内、火野、吉岡、アジア連帯委員会、松岡

10日の夜(8時)全体会議。1、外観 畑中さん2、各部から報告、印象記をそれまでかく。

(報告10分)文化問題について、自分がやる。

- スタッフは中原君が行くことにきまる。
- なるべく、香港で日を合はせること。
- 中国工作人員に対するお礼。すこしづつ出しあふ。

香港で□□ととのへあとは委員会を通じて送ること。

* (欄外) ○ 部屋にメーデーらしい油絵

* (欄外) ○ フジ△十〇夜。



画像⑫

5月9日 (北京) ㊦

◎農業座談会。(9時出発、平和委員会の事務所に行く)

- 杜 潤生さん（科学院中国農業研究所）の話。（眼鏡かけた細面の人、穏かな話ぶり）
- 農業施設団といつしよ。
- 農業改革の社会改革面。（技術面は別の人から）

農業経済は遅れてゐた。生産関係がおくれてゐたため、技術もおくれた。農民は技術の面で豊富で貴重な経験を持つてゐる。しかし、工業水準が低かつたためそれを十分に発揮できなかった。或るところでは原始的な道具でやつてゐるか、一畝（日本六畝）に千斤（500キロ）の稲を出してゐるところがある。困難な条件の下で、労働の大きな創造性を持つてゐた。遅れてゐる二つの点、生産経済関係と工業と農業の設備。原因、中国社会が長期間にわたつて、封建制下にあつたため、農民は圧迫され、技術がおくれ、貧窮からのがれられなかつた。斗争の中心点は封建制打倒。10/100 足らずの地主と古い形の富農がゐた。土地の 50-70% を占めてゐた。90% 弱の農民が 50% 以下の土地しか持たなかつた。これが農村経済の背景、地主は土地を借し貸へ、生産の半分以上の小作料をとつた。農民が一日働いて、半日の労働を搾取されたわけ。半分で、政府に一部を収め、軍閥の割り当てを出した。購買力がなく拡大生産に従事することもできなかつた。封建制度が壁。過去において多くの学者はこれを理解できず、農民が無知で、技術を知らなかつたなどといひ、根本を見あやまつた。土地改革の実行が大切。世界に二つの種類の土地改革がある。ブルジョアが指導したものと、プロレタリアのしたものと。二十世紀になつて、特に中国の中で、ブルジョアが指導するとすれば成功することはできない。改良主義はその市場がない。共産党の土地改革は断固として徹底であつたので成功した。その特徴、①農民をもつとも信頼すべき政治的同盟軍と見なしてゐる。農民として国家の主人たらしむる。もし土地をあたへても被圧迫階級であるならば、土地を保持することはできない。農民が政治的地位をもつことによつて、革命の成果を維持できる。ブルジョアジーの土地改革は農民を支配者とはしない。中国のブルジョアジーはその土地改革すらできなかつた。民主革命の根本問題。②土地の分配について。農民に土地を分与するに当つて、無償地主に金を払つて買ふのではない。農民は貧しくて土地の債務を払ふ力はない。買ふのなら、いらぬといふのであらう。地主の土地 7 億畝を没収、（15 畝が一ヘクタール）地主の有する生産手段も没収した。役畜、農具等。農民に土地と生産手段をあたへた。地主のありあまつた家屋も没収して農民にあたへた。食料も没収し、農民にあたへた、すべて無償。

これらは人民政府によつてこそ実現された。蒋介石打倒なくしてはできなかつた。③農民に於ける異つた階級に異つた態度をとる。封建制打倒の統一戦線。貧農と雇農に依存する。土地のない者、少い者、農村人口の 50-70% を占めてゐた。この経済的重要を満たしてやつ

た。

中農の団結。(党へ協力させる) 中農は20%位だが、多い地方50%、搾取せずされぬ階級。土地改革においてはかれらの利益に手をふれてはならない。もしふれば貧農の生産意欲を損じる。改革後、中農は農村人口の多数を占めた。③富農を中立させること。政治的に中立を保持し、地主と連合して、反対しないやうにする。富農の財産をおかさない。自分で労働し、他を雇ひ入れ、比較的多くの土地を経営してかす者。しかも富農が地主と同じ方法であれば、それは没収。一部分の富農は資本主義的と封建主義的と両方。封建の方を没収する。④少量の土地を貸し出してゐる者は地主と区別して保護する。都市に住んでゐる労働者、教師、職員などが自分で働いてゐながら、農村に少しの土地を持つてゐる者、農村にゐて年とつたり、不具になつたりした者が自分の土地を人に貸してゐる場合、これらの人たちは客観的には搾取してゐるけれども、土地は少く、自分も労働者なので地主として扱はず、勤労人民の内部の問題として解決する。土地改革法に規定がある。その地方の農民の土地所有の倍を超えない場合は没収しない。相当にかういふ人たちがあつた。これに保護を与へないと不利。

⑤地主が都市で経営してゐる商工業に保護をあたへる。都市の経営者が農村で地主であれば、土地の方だけ没収する。⑥徹底的に、しかも区別して地主階級を消滅する。本人が必要なだけの土地と生産手段を残す外、皆没収。地主一人分は農民の一人分と同じ。生活できるためと労働改造を行ふため。悪質地主は殺人、放火等の破壊行動をおこなつた者は法に照らして懲罰。全国において、地主以外、95%人口団結。都市から農村にいたる反封建の統一戦線を結んだ。断固として徹底的である一面、穏当であつた。左傾的右傾的誤ちをおかさないうやう努めた。- 群衆の力に依存すること。人民民主主義の政権がなければ土地改革はできない。昔から農民は斗争をつづけて来た。不徹底な土地改革であつても、反地主運動であれば支持した。農民の強制徴兵反対も支持した。すべての労力が蒋介石を打倒、日本帝国主義への抗革、アメリカの干渉排除に集中された。そのころ、徹底的土地改革を要求実行することは不可能であつた。政権をとつてから大規模な改革を行つたのである。このとき注意しなくてはならぬことは、政権の力に頼らず、人民の力によつてやるといふこと。強大な政権のみに頼つて、農民が地主の土地を奪ひとるといふ形になるのは誤り。単に政府が土地をあたへるだけなら、農民の政治的覚醒はない。農民自身が自力で斗争して得たといふ自覚。地主はわるい土地を出すことがある。たたかひとつた土地、救済によつて恵まれた土地でないといふこと。知つて土地を尊び、階級的に目ざめる。砂のように団結できない農民がかくて組織される。これは天地をくつがえすやうな変化。農民は全人口の80%、かれらが目ざめ、組織され、

力を持てば全中国がさうなつたことになる。組織の形式は農民協会。この組織を鍛へるためには地主に対する政治闘争を通じて行ふ。組織のため、幹部は農村へ行き、ともに生活しながら一つ一つ組織して行つた。都市でのように趣意書を廻し、記名させるやうな形式主義をとらない。形式主義は農村におけるもっとも大きな敵。文化水準ひくい。口先宣伝ではダメ。農民は経験を経なければ立ちあがらない。いまふりかえつてみると、土地改革は欠点があつた。或る地方では注意が足らなかつたことがあつたが、すぎたこと。以上農業改革の一段階。(休憩)

* (欄外) 昔「好○当兵」金でゆるしてもらへた。

- 農村の社会主義改造について。封建制排除後、生産力解放、その方向が問題。現在、小農経済になつた。搾取されはしたが、困難が多い。分散した小農経済は発展した工業技術をうけ入れることができない。将来、トラクター、化学肥料を生産することができるが、一人当り一ヘクタール位の農民には不可能なので、将来は小経済から大経済に向ふ。
- 資本主義も大経済の一つで、進んだものであるが、農民の大破綻のうへに立てられたもの。資本主義生産は発展しても農民は破産する。アメリカ、イギリス、フランス経済等に例がある。他国では農業生産品が過剰になり、農民は貧困になる。社会主義が農民を救ふ。その方法——農民と労働者間には区別がある。労働者はもともと無産階級、資本家の財産を国有にすれば社会主義化は完成されるが、農民自身が小所有者。もし土地を国有にして、農民に労働者となれといふことは農民にはうけ入れられない。農民には協同化の道しかない。商品流通を通じて、協同化する。購買販売総会 これだけでは根本的な解決はむずかしい。それは生産関係を改めることできない。

農業生産合作社(協同組合)の最後の形態はソ同盟式のコルホーズ、(集団農場)、重点をおきたいのは初歩的段階。中国農民の知識水準、工業現状ではコルホーズは困難、今は初級形式の協同組合。特徴—農民が土地と主な生産手段をあつめ、協同労働、統一経営、統一分配、土地の所有権はそのまま。小経済が大経済へ、零細経済が集団経済になつたものだが、完全でなく、部分的集団経済、半社会主義的経済と呼んでゐる。土地は協同組合の計画にもとづいて耕作され、労働力は統一的に配置されるが、分配関係で完成な社会主義と区別がある。分配の例、100円の収入、10% 公共積立金、25% 生産流動資金。あまつた部分の50%以上、組合員の労働日にしたがつて分配、50% 以下を土地に対する報酬、として分配。これが農民の土地所有をみとめてゐるので半社会主義的、将来、社会主義になればこれがなくなる。将来、土地と生産手段は組合員の共同所有となる。今、使用权は組合にあるが、所有権は農民自身にある。現在は農民がこれをよろこんでうけいれてゐる。これによつて生産増

加、収入も増加した。個人経営よりよいことがわかった。将来もう一步進むときに容易。農民はだんだん社会主義が恐ろしいものでないと感じてくる。半社会主義的段階は十幾年を要する。1951年度から開始。まだ幾年か経たぬと恒久的協同組合にならない。今でもセツカチにやつてはならぬ。経営がよくなつてから進める。合作社はこれによつてもとの生産者の15%を増やすことができるが、キカイ、水利、化学肥料その他が合理化されればもつと増す。しかし、今は不充分。農民自身は社会主義者ではない。社会主義は共産党から教はつたもの。社会主義の道を歩ませるためには事実をもつて説得しなくてはならない。協同組合運動は断固としてやる一面、慎重さを要する。合作社の経営の速度にもとづく。農民は有利でなければ歓迎しない。去年10万の協同組合を作つたが、経営がよかつたので今は60万になつてゐる。これは農民の所帯人口13%、購買販売組会はこれに比較して早い。売買の協同化は土地より経験が少いので、今学んでゐる。

- 中国の原野は少数民族と東北地域。将来は直営農場、牧場、林場、経営。大山林は分配してゐない。分散的な地主の山林は分配した。以前からその山林を経営してゐた者へ、あたへたが、山林と土地の多寡で均衡をはかつた。それから協同組合を作つた。山林の性質ちがふため複雑、□□私有の山林を農民にも分けた。山林に依存して生活してゐた農民もあるため。
- 富農は今制限の対象になつてゐる。制限から徐々に消滅の段階。制限の方法、購買販売組合を發展させ、商業を通じて制限、生産組合を發展させ、労働力を雇入れることも制限、信用組合を發展させ、金融を制限、農村では1%か4%、大した数ではない。多くの富農が一年位で中農になつた。富農の土地は中農の二倍を越えない。富農の問題は解決しやすいので、ソ同盟がやつた地主に対すると同じ方法をとる要はない。合作社は富農の参加を許さない。中農になれば許す。中農には旧中農、新中農の二つ。新中農は貧富から変化、社会主義批難、旧中農はもともと20%、新と加へて60-70%、中農化した国家といふこともできる。協同化に入るよい時期となつてゐる。もし今やらなければ一部の資本主義的要素が發展する危険がある。
- 一つの生産協同組合は平均25農家。○ 科学肥料が手に入らないのは、国際貿易の障害と、買つても足りない。棉の栽培にも足りない。幾百マントン必要。農民は資金は持つてゐるが買へない。協同組合で^{ママ}きから分散してゐた資金が集中した。自然肥料を使つてゐるから全世帯の科学肥料を全部もつて来ても足りない。今耕してゐる播種面積22億畝、棉だけ1億畝、その他厩大。科学肥料の消費は控へ目にしてゐる。
- 生産協同組合と購買販売組合との関係。農民は同時に両組合員、全国的組織だから、組織

上の関係はない。経済的のつながりはある。前者は生産品を後者に売り、後者は前者の計画にもとづいて供給する。農民は個人のは後者に貰ひに行く。昔は二つの組合の間に貸借関係があつたが、信用組合ができて以後なくなつた。

- 国家が経営して農業技術指導ステーションで、指導する。新しい農機具を供給すること、古い様式のスキは二寸しかあけなかつた。双輪双刃で七、八寸位。国家が斡旋訓練。①合作社 ②区長 ③技術員 ④会計係
- 貧農の存してゐた地区の生産者を富裕なる中農までに引き上げる□方、1畝に400斤－500斤、貧農は300斤位しかとれない。生産の潜在力は大きい。河北一帯で水田にすれば500斤出ると、畠のままでは100斤－200斤。だから機械がなければ増産できないとは思はない。
- 農民の税金、生産高の13/100（1950年度を基準として）
- 農民の聲がどういふ風にして中央にとどくか。①人民代表大会 ② 互助合作社 ③ 共産党の組織を通じて。
- 国营農場の数は多いが、もともとの耕地は使はず、荒地を開墾、大規模な機械を使ひ、技術の改良、品種改良、飼料の問題等を研究、農民へ示範してゐる。国营農場の農業社主義化への役割は大きい。
- 午後もつづいて農業座談会の由。ホテルにかへつて便所に入ると、牧ノ内さん横に来て「火野さんは今日のやうな話は用がないでせう」といふ。「どうしてですか」「文学と関係ないでせう」「ありますとも、大ありますよ」このヂイサンのトンチンカンは毎日である。質問でもピント外れやクリゴトが多く、朝日一言居士など、みんなの前で、「あんた、もう発言やめとけや」などといふ始末。労農党中央委員で弁護士といふ話である。東北にいつしよに行くのである。
- 昼食。夜はサーカスといふ。すこし、原稿かきたいと思ひ、休むことにする。十一日まで、日程が一杯。松本宏君は、自分がかへらないと十三万組合員が去就に迷ふからといつてゐる。デリーでは、国鉄四十万の興望をになつて来た、といつてゐた。
- 柯さんがドアをノックして「オセ川の合作社においでになりますか」といふ。出る。二台の車で出発。宮崎龍介さん一行と女性群、それに中村さん。前門外へ。
- 北京市第一食品生産合作社（李鉄坡斜街）
- 城外にもう一つ分工場がある。アメ玉とビスケット。待つてゐると、事務所をかたづけ、案内する。「□発展社会主義經濟而奮闘」の紙、「同志們云々」パン工場。ヒマノ時ビスケット作りビスケット1斤58銭。アメ1斤72銭（安）高いのは一円以上。原始的な手工業。泉

さん、日本の方がずつと進んでゐるといふ。アメ玉をつつむ白衣の女王たち。狭いところでビスケットつくる職員たち。

- 従業員 240 名（二つ工場合せて）
- 一日、一万一千球（アメ玉）泉さんは菓子屋の専門家故、カタログを送る約束する。設備は問題にならないが、三軒で会社をはじめたといふところに意義があるのである。せまいので大して見るところもなく、一時間もかからずにすむ。早いので、瑠璃廠（ルリチャン）の骨董街に行く。
- 蛭宝齋（「人民中国」に出た、信用のある店）
- 寒吉や日夏先生のため墨を買ふ。紙など買ふ。女性群はあれあれ買物に手間かかる。帰館。
- 夜
- 朝日新聞、門馬君から頼まれてゐたのに、これまで書けなかつたので、スワミ・ナタムのこととインド文学のこと書く。どうも方々への原稿どれもこれも不義理してしまつた。家のこと、金のこと、気になることばかり。ソビエート、インド、朝鮮、行きたいところばかりだが、早くかへらねばなるまいと思ふ。

*（欄外）ハスの花お□□-「電気仕掛けかね」と牧ノ内氏

*（欄外）中国 1 斤 = 0.5 キロ □□□□

5月10日（北京）

- 原稿出す。朝日、8.6 銭 ハガキ六枚、一枚航空 45 銭
- 中央戯劇学院長宅。（人民大学降り、書齋、日本の本）
- 鷗陽さん。（日本語のうまい闊達な紳士。）（セビロ姿。オヤマの歩き方、カガトを先につける。廻るときハ美しい手。66 才「丑です」）
もとは女形（オヤマ）だつたといふ。シグサする。
- 中央歌舞団（実験劇場で見たもの）各団
- 踊り、日本の踊りもとり入れたい。
- 新歌劇「草原之歌」欧化しすぎてゐるといふ批評があつた。争論があつた。古い思想の上に、新しい形式、新しい思想と新しい形式、自由に発展させる、見物の方で撰択させる。
- 京劇、種類多い。
- 越劇、古い思想で発展した。
- 「白毛女」「王貴と李香」

- 旧芝居のやり方で新思想を反別^{ママ}すること困難。今の農民、兵隊をやると新しい形式を創らねばならぬ。歌劇の歴史十年位しかない。評劇でも「草原之歌」やつてゐる。すべて中国の楽器、歌詞は同じ、しかし、全然別のものになつてしまふ。歌ひ方がちがふ。ソプラノ、バリトン、アルトなど欧風になると欧風、洋劇風にやるとわかりやすく親しみやすい。「劉巧児」は非常に歓迎されてゐる。通俗的。将来どうなるか、大衆きめる。
- 新劇 45劇団位(全国)北京では総合劇団は三つ。京劇一流俳優、新派よりずつと収入多い。1000円-2000円以上。譚富英(立ち方)1日 70円以上。
- 洋劇も多いが、新劇も比較的平均されて来た。200円位。院長の自分が210円。「孫悟空」をやつた李小春は700円位。「秋江」は四川劇だつたが、コンクールに出て来たのでわかり、京劇にとり入れた。しかし、もとの形の方が生活的でよい。あまりシグサをつくりすぎてゐる。
- 新劇(話劇)
朝鮮戦線のものが多い。「戦線南移」
- うまい役者-于是之(ウーシーチー) 蓋馬(ランマー)、刀輝、雷平、国域。
- 「四十年の願望」 (「宣伝劇ですからね、技術的にはあまり」)
- 「春風吹別総敏汀」
- 「萬尼亞舅舅」(叔父ワーニヤ) 監督 孫継世←有名(スタニスラフスキー学校卒業生)
金山(ワーニヤ)うまい役者、路曦(ソーニヤ)
- 翻訳劇もたくさんやつてゐる。ゴゴリ「検察官」最近やつた。
- 15年前には日本のものたくさんやつた。藤森清吉、村山知義、小山内薫など。土方与志
- 「鋼鉄はいかにして鍛へられるか」
- 鷗陽さん「自分も新しいものをかいてゐるし、新しいものを紹介しようと考えてゐる。戦争で困難だつたが、解放後、進歩が早い。欠点もある。実験的にやつてゐる。やるほど欠点がたくさん出てくるんです。前に新劇は日本の影響うけた。現在はスタニスラフスキー・システムによる。
- 「戯劇報」にのつてゐる日本「白毛女」
- 前進座 国太郎「女形の世界」鷗陽さんにききあはせた。
- 学校のこと-文化部直属、今は高等学校、もとは大学の第三部、芸術部、短期。1950年~53年まで、短期訓練。歌劇、新劇、舞踊、三つやつた。人数が制限以上あつた。教へながら演出、複雑だつた。53年の夏から改組した。演出団体は独立した。実験歌劇団、人民芸術、学校は演出せず教へるだけ。①表演系(役者を養成すること)②導演系(演出カント

ク) ③舞台美術系(装置) ④戯劇文学系。争論がある。作家を養成するつもりだが、なるかならぬかわからない。いろいろなものを読ませて勉強させる。理論家、批評家、作家になる基礎。ソビエト専門家来て、懐疑的、が、将来20名の学生のうち、一人か二人の作家が出れば満足。5分の一なら成功、才能の問題は嚴重なもの、今21名学生。①表演系25名、女5名 ②カントク15名、数がちょうどよい、月に練習が二度できる。③装置系20名、5年卒業。高等学校卒業生と、劇壇の役者、監督 助手などがある。1953年入学学生は才能ある人少かつたので、一年教へて、退学12名(各部平均3名)、卒業生は各劇団へ、分配するつもり、ソビエト専門家二人(スタニスラフスキーの学生、モスクワ芸術座のカントク、ワスタンゴフ劇団のカントク)が来てゐる。学費二種類、劇団のカントク、役者の場合は劇団負担、高等学校卒業生は助学金(12円位、食費)優等生は無料、芝居見るのは招待無料、梅蘭芳などなかなか見られない。芝居見る人、不思議な舞台、新芝居、出たら、習日の切府ため深夜12時、泊りがけで行く。梅蘭芳四日公演(5月4日~5月7日)2円、ヤミのプレミアムなどない。許さない。警察ひつぱる。上海などあつた。飛票(ヤミ切符)。阪本氏は秋田雨雀氏の舞台芸術学院の講師とかで、鷗陽院長から学院へ、舞台芸術写真集を寄贈される。国へも一冊、演劇雑誌などたくさん。院長先生の案内で、自宅を出て、学校の方に行く。

* (欄外) 鷗さん 教務主任をシラタキさんとよぶ。

- 中央戯劇学院。全員500名以上
- 建築中の建物。レンガの山。教務主任白滝さんの案内で校内見学。ゴタゴタした校内。
- 鷗さん「わたし、病氣ないんです、ただ関節炎。」ステツキをつき、すこしビツコを引いてゐる。潤達機智の人。
- 舞台照明実験室。模型「白鳥の泉」(ソ連のバレエ)の舞台が二つ、湖の場に二羽の白鳥、宮殿の場、学生が部屋をまつ暗にし、電気照明の変化を見せてくれる。舞台装置は日本はなかなかよい。
- 佈景技術実験室。背景や、大道具の作製。大勢の男女学生が、材木の扉らしいのを作つてゐる。ベツトリと手をよごし、共同作業。
- 第一排演室。「叢間の中で成長」の場面。
ウイグル族、まだよく北京語しやべれない。
- 彩画教室-舞台系習作観覧会、水彩、鉛筆画 正確メンミツな絵。
- 銭宰稔、周路石=同志、4月5日~5月3日
山西太面字因特歴7日 陽泉爆二広寺に行き蒐集、展販(教員、労働者の中に入る)

- 第一素描室。(二階) 水彩画、数百枚壁に。北京郊外写生。
- 第二素描室。写生してゐる学生衆団。ギリシャ彫刻。人体解剖像
- 佈景絵画教研室、油絵一枚、と絵具皿たくさん。
- 芝居やつてゐる。カントク養成。舞台の上で(一年生)「新事実の前」の舞台。二人の男女学生、先生、何度も注意やりなほし。
- 第七排演室。女の先生。一年級 第二学期、四五人の女子生、六人の男学生、舞台のないところで芝居の構成。戸口に立つてゐると、そこは舞台だからと奥へ招じられる。芝居してゐる二人の男女学生。できたての新しい着物、どちらも着合ふ。「似あふでせう」楽屋は外の廊下。扉をたたく音。友人入つて来る。女学生、ちつと見てゐるがなんともいはない。「結婚前」といふ芝居。其の恋人、かへつて来る。悲歎場。女先生終つたあと注意。「結婚のよろこび出てゐない、其の恋人あらはれたときのおどろき、もつとあらはさなくばいけない。心理をもつと」
- ◎第二排演室(階下) 二年級

曾器「家」の稽古。ひろい石だたみの部屋、先生、はじめから指示をあたへる。女学生の一人、芝居、先生注意、二人問答。

 - 恋人に手紙かかう、どうしてもかけない、その他心の苦悶をあらはさなくてはいけない。そのしぐさでは観客に通じないといふ。先生、また、はじめ。シーンとなる教室。学生「観客に見せようとすればわざとらしくなりはしないか」先生「それを統一しなくてはなりません」
 - 廊下に立つてゐる兵隊(役者である)三人、武装し、銃をかまへて歩哨のやう。戦闘の中できたはれる芝居の稽古中で、廊下が楽屋。笑ふ兵隊。
 - 来公室にかへり、鷗陽先生においとまをして辞去。
 - 洋服屋
 - 平和委員会。(白石の大作すばらしい)
 - 朝鮮大使館
 - 寥承志さん。
 - 郭沫若氏の招宴。
 - 放送局、北京廣播電台。